

気象警報・注意報発表基準等

1 警報・注意報発表基準一覧表

令和5年6月8日現在
発表官署 横浜地方気象台

横浜市	府県予報区	神奈川県		
	一次細分区域	東部		
	市町村等をまとめた地域	横浜・川崎		
警報	大雨	(浸水害)	表面雨量指数基準	14
		(土砂災害)	土壌雨量指数基準	104
	洪水	流域雨量指数基準	矢上川流域=14.4, 早瀬川流域=12.3, 鳥山川流域=7.7, 大熊川流域=6, 恩田川流域=17.8, 有馬川流域=6.7, 境川流域=19, 柏尾川流域=15.1, 宇田川流域=6.5, 和泉川流域=7.6, 相沢川流域=4.5, いたち川流域=10, 阿久和川流域=6.2, 新田間川流域=11.1, 大岡川流域=16, 今井川流域=7, 帷子川流域=12.3, 日野川流域=7.8	
		複合基準*1	鳥山川流域=(8, 7.2), 境川流域=(10, 18.5), 柏尾川流域=(8, 13.5), いたち川流域=(8, 9.1), 大岡川流域=(8, 14.3), 今井川流域=(8, 6.3), 帷子川流域=(8, 11), 鶴見川流域=(8, 22.3)	
		指定河川洪水予報による基準	多摩川[田園調布(上)], 鶴見川[亀の子橋・綱島]	
	暴風	平均風速	陸上	25m/s
			海上	25m/s
	暴風雪	平均風速	陸上	25m/s 雪を伴う
			海上	25m/s 雪を伴う
	大雪	降雪の深さ	12時間降雪の深さ10cm	
	波浪	有義波高	3.0m	
	高潮	潮位	2.3m*2	
	注意報	大雨	表面雨量指数基準	10
土壌雨量指数基準			61	
洪水		流域雨量指数基準	矢上川流域=11.5, 早瀬川流域=9.8, 鳥山川流域=6.1, 大熊川流域=4.8, 恩田川流域=14.2, 有馬川流域=5.3, 境川流域=15.2, 柏尾川流域=12, 宇田川流域=5.2, 和泉川流域=6, 相沢川流域=3.6, いたち川流域=8, 阿久和川流域=4.9, 新田間川流域=8.8, 大岡川流域=12.8, 今井川流域=5.6, 帷子川流域=9.8, 日野川流域=6.2	
		複合基準*1	早瀬川流域=(5, 9.8), 鳥山川流域=(5, 6.1), 恩田川流域=(5, 13.2), 境川流域=(5, 15.2), 柏尾川流域=(5, 12), 和泉川流域=(5, 6), いたち川流域=(5, 8), 阿久和川流域=(9, 3.9), 新田間川流域=(5, 8.8), 大岡川流域=(5, 12.8), 今井川流域=(5, 5.6), 帷子川流域=(8, 7.8), 鶴見川流域=(8, 15.8)	
		指定河川洪水予報による基準	鶴見川[亀の子橋・綱島]	
強風		平均風速	陸上	12m/s
			海上	12m/s
風雪		平均風速	陸上	12m/s 雪を伴う
			海上	12m/s 雪を伴う
大雪		降雪の深さ	12時間降雪の深さ5cm	
波浪		有義波高	1.5m	
高潮		潮位	1.4m	
雷		落雷等により被害が予想される場合		
融雪				
濃霧	視程	陸上	100m	
		海上	500m	
乾燥	最小湿度35%実効湿度55%			
なだれ				
低温	夏期: 最低気温16℃以下が数日継続 冬期: 最低気温-5℃以下			
霜	最低気温4℃以下 晩霜期			
着氷・着雪	著しい着氷(雪)が予想される場合			
記録的短時間大雨情報	1時間雨量	100mm		

*1(表面雨量指数, 流域雨量指数)の組み合わせによる基準値を表しています。

*2 神奈川県が定める基準水位観測所(多摩川河口, 山之内, 横須賀, 鶴見川河口)における高潮特別警戒水位(2.90m, 1.40m, 1.40m, 1.70m)への潮位の到達状況を考慮して、これによらず高潮警報を発表する場合があります。

- ・ 神奈川県の「記録的短時間大雨情報」は、1時間雨量が100mm以上の降水が観測又は解析された場合に発表する。
- ・ 警報(大雨, 洪水を除く)及び風雪, 強風, 波浪, 高潮, 大雪の各注意報では、基準における「…以上」の「以上」を省略した。また、乾燥, 濃霧, 霜の各注意報では、基準における「…以下」の「以下」を省略した。
- ・ 上記以外の注意報では、基準の標記が多岐にわたるため、省略は行っていない。
- ・ 表面雨量指数は、短時間強雨による浸水害リスクの高まりを示す指標で、降った雨が地表面にたまっている量を示す指数。解析雨量、降水短時間予報等をもとに、1km四方の領域ごとに計算する。
- ・ 土壌雨量指数は、降雨による土砂災害発生の危険性を示す指標で、土壌中に貯まっている雨水の量を示す指数。解析雨量、降水短時間予報をもとに、1km四方の領域ごとに算出する。
- ・ 流域雨量指数は、降雨による洪水災害発生の危険性を示す指標で、対象となる地域・時刻に存在する流域の雨水の量を示す指数。解析雨量、降水短時間予報をもとに、1km四方の領域ごとに算出する。
- ・ 複合基準は、(表面雨量指数, 流域雨量指数)の組み合わせによる基準値を表す。
- ・ 「融雪注意報」及び「なだれ注意報」に関しては、現象による災害がきわめて稀であり、災害との関係が不明確であることから具体的な基準は定めていない。

2 気象等に関する特別警報の指標

現象の種類	特別警報の指標
大雨 (浸水害)	以下の①又は②を満たすと予想される状況において、当該格子が存在し、かつ、激しい雨がさらに降り続けると予想される場合 ① 流域雨量指数の指標 流域雨量指数として定める基準値以上となる1km格子が20個以上まとまって出現。 ② 表面雨量指数の指標 表面雨量指数として定める基準値以上となる1km格子が30個以上まとまって出現。
大雨 (土砂災害)	過去の多大な被害をもたらした現象に相当する土壌雨量指数の基準値以上となる1km格子が概ね10格子以上まとまって出現すると予想され、かつ、激しい雨(1時間に概ね30mm以上の雨)がさらに降り続けると予想される場合
暴風	伊勢湾台風級(指標:中心気圧930hpa以下、風速50m/s以上)の台風や同程度の温帯低気圧が来襲する場合
高潮	
波浪	
暴風雪	・台風については指標(発表条件)の中心気圧又は最大風速を保ったまま、中心が接近・通過すると予想される地域における暴風・高潮・波浪の警報を、特別警報として発表 ・温帯低気圧については、指標(発表条件)の最大風速と同程度の風速が予想される地域における、暴風(雪)・高潮・波浪の警報を、特別警報として発表
大雪	府県程度の広がりをもって50年に一度の積雪深となり、かつ、その後も警報級の降雪が丸一日程度以上続くと予想される場合

※ 横浜の50年に一度の積雪深値:31cm(ただし、積雪深ゼロの年もあり、50年に一度の値の信頼性が低いため、あくまで参考値として示されているもの)

3 地方海上警報の種類(津波に関するものを除く。)

船舶に対して行うもので、それぞれの海域において各警報の発表基準に達しているか、又は24時間以内に達すると予想されるときに発表する。

種類	説明
海上風警報	風力階級7に相当
海上濃霧警報	海上の視程がおおむね500m以下の場合
海上強風警報	風力階級8又は9に相当
海上暴風警報	風力階級表の風力10以上に相当
海上台風警報	台風により風力階級12に相当
海上警報解除	発表基準を下回った場合
海上警報なし	警報の発表基準に達していないか、又は24時間以内に達すると予想されない場合

※海上警報は、上記の状況が予想される場合に発表する。

風力階級は、「気象庁風力階級表」(ビューフォート風力階級)による。

4 参考ウェブサイト

- 気象警報・注意報(気象庁ウェブサイト)
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/warning.html>
- 海上警報・予報(気象庁ウェブサイト)
<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kurashi/umiyoho.html>